

# NAGASAKI

## 看護連盟だより

2021  
新春



謹賀新年

あけましておめでとうございませす

届けよう

看護の声を!

私たちの未来へ

目次

長崎県看護連盟会長挨拶……………	2	2020年度長崎県看護連盟通常総会……………	7
長崎県看護連盟名誉会長挨拶……………	3	2020年度日本看護連盟通常総会……………	7
日本看護連盟会長挨拶……………	4	青年部だより……………	8
あべ俊子衆議院議員挨拶……………	4	令和2年新入会者の声……………	9
たかがい恵美子・石田まさひろ参議院議員挨拶……………	5	秋の叙勲受章・連盟応援団……………	10
木村やよい衆議院議員挨拶……………	6	入会案内・編集後記……………	10
長崎県県政報告会……………	6		

<http://kangorenmei-nagasaki.jp/>



長崎県看護連盟

発行所／長崎県看護連盟  
(諫早市永昌町23-6 ☎0957-49-8064)  
責任者／久米春代



# ごあいさつ

長崎県看護連盟 会長 久米 春代

## 新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は看護連盟活動にご協力いただきましてありがとうございました。

2020年は新型コロナウイルスの影響で様々な変化があった年です。

その中で、コロナ禍の最前線で看護を実践し患者さんやご家族の皆さんを支えて下さっている看護職の皆さまに心から感謝申し上げます。看護連盟も会員施設へアンケート調査をおこないまして、その結果を取りまとめて県・市・議会・自民党県連へ要望書を11回にわたり届け、その都度お返事を頂くことができました。ありがとうございました

さて、2020年日本看護連盟通常総会も11月30日に感染防止対策をとり、集合30名、リモート300名、委任状233名の参加のもと無事終わることができました。

2022年の26回参議院選挙に向け今年の総会では候補予定者を擁立して看護協会・看護連盟一丸となり高得票当選を目指し活動してまいりましょう!!

今年は丑年です「牛も千里、馬も千里というように、努力した結果は確かに自分のものになるので、少しずつでも確実に経験を積み重ねて、牛のような大きな成長を目指します」呑牛之気で邁進してまいりますので、会員の皆様に、嬉しいこと、楽しいこと、幸せなことが牛牛（ギューギュー）に詰まった1年になりますように祈念いたしまして年頭のご挨拶いたします。







# 年頭のごあいさつ

長崎県看護協会 長崎県看護連盟  
名誉会長 山口 ミユキ

## 謹んで初春のお喜びを申し上げます

お揃いで令和3年をお迎えのことと察する中で、計らずも新型コロナウイルス感染拡大により、命を守るためにマスクを着用して暮らす不安な毎が続いております。

この暮らしの中で看護職者として人間とは健康とは看護とはを…自問自答する日々に、その役割は何か、時あたかもフローレンス・ナイチンゲール生誕200年記念すべき年、朝夕に唱えるフローレンス・ナイチンゲール誓詞を礎に、時局に即した看護が、すべての人々を人間らしくその人らしく、穏やかな最期を支える看取りの文化として輝くとき、計らずも新型コロナウイルス感染拡大の看護に従事するいま、看護職者の使命として昼夜問わず看護に専念する中で、使命にも限度があると思います。

健康でより豊かな良質の看護が提供できますように…、看護の組織力を更に固く強くする為に、協会会員、即、連盟会員となって、日本看護協会、長崎県看護協会の政策が実現できる為に、令和3年度の組織強化を実現しましょう。

看護の力で日本を元気にする。新型コロナウイルス感染拡大が早期に収束することを願い、会員同志の幸せを祈念して年頭のごあいさつを申し上げます。

GOTO 年末年始停止の新聞記事  
令和2年12月15日記 (読売新聞)

2020年度今年の漢字は

「密」!!!



# 新年のごあいさつ



日本看護連盟 会長 大島 敏子

新年あけましておめでとうございます。

去年はCOVID-19の感染に終始した1年でした。臨床の皆様にとって、病態が分からず治療法も治療薬もないまま看護することが、どんなに大変で、心揺れ動きながらの日々であったかと思うと、心からの敬意と感謝を送ります。看護職全体がそれぞれの立場で、最善を尽くしてきた1年でありました。それ故、世間では、医療関係者への感謝を「Light it Blue」や「Friday Ovation」そして、路面電車やバスに感謝の言葉をラッピングし走りました。これは、全ての看護職の実践の成果です。本当にありがとうございました。戦いは終わったわけではありませんが、もう一息です。国民と共に頑張りましょう。

連盟の去年の課題は、令和の地域包括ケアシステムに合わせたスローガンの変更とPR動画やポスターの作成、広報ツールの見直しとブロックセミナーを協会長参加で開催すること、そして戦略会議を各県ごとからブロック開催することでした。以上は確実に実現できましたが、第26回参議院選挙の候補予定者の推薦については、委員会規約を見直し、今年の総会でご承認いただく予定です。

丑年の今年、大地に足を下ろし、協会が連盟をつくってきた60年前に戻り、「看護は一つ」の合言葉の下に、連盟活動を原点回帰の1年にしたいと考えます。本年も宜しくお願い致します。



衆議院議員 あべ 俊子

新年明けましておめでとうございます。令和三年の新春を迎えるにあたり、ご挨拶させていただきます。

長崎県看護連盟の皆様には、昨年より、新型コロナウイルスとの闘いの最前線に立ち、日本国民のいのち・くらしをお守りいただいていることに、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの拡大当初より、医療、研究、様々な分野の総力を結集してこのウイルスと戦って参りました。まだまだ未知の部分が多い中、感染しても重症化を回避できつつあるのは、皆さまの日頃の看護のおかげでございます。ご自身の感染リスクがある中、患者最優先で業務されている日々の積み重ねにより、医療崩壊を起こすことなく、新しい年を迎えることができました。

去年は、こうした皆さまのご尽力に対し、十分でないながらも、慰労金や助成金の形で、ご支援させていただきたく、関係各所との協議に奔走した一年でございました。ウイルスとの闘いが長期戦になる中、求められる支援も変わってくるのが想定されます。いつの時も、政策立案の基本となるのは、現場からの声でございます。

今年『新しい日常』の中、社会、医療、経済復興の模索が続きます。臨床、教育、行政の現場よりご意見いただき、With コロナ時代を皆さまと進んで参りたいと存じます。



参議院議員  
自民党政務調査会副会長

たかがい恵美子

謹んで初春のお慶びを申し上げます。長崎県看護連盟の皆様には日頃より大変お世話になっております。看護職の皆様並びにご家族の皆様におかれては、昨年来の感染症有事への対応等、公私ともに大変なご負担をおかけしております。厳しい自制と自粛を続けながら、いのちの最前線で国民の生命と暮らしをお守りいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。昨秋より政調副会長として、主に厚生労働及び文教科学スポーツ分野の政策を担当するとともに、新型コロナ対策本部副本部長として現下の感染症有事対策とガバナンス態勢の構築に携わり、また行政改革推進本部役員として管政権が進める規制緩和とデジタル化推進に関する与党の政策提言とりまとめに関わらせていただいております。人々に幸せを運ぶ看護職の笑顔を守り、一人ひとりが存分に役割を発揮できる環境を実現すべく、本年も鋭意努力して参ります。皆様にとって、いのち輝く健やかな年でありますようご祈念申し上げます。



参議院議員  
厚生労働委員会理事  
自民党副幹事長

石田 まさひろ

長崎県看護連盟のみなさま、あけましておめでとうございます。2021年が、すばらしき一年となりますよう心からお祈り申し上げます。昨年は新型コロナウイルスの蔓延により、私達看護職は医療介護の現場ではウイルスと、そして家庭をはじめプライベートな場所でも日々不安と戦ってきました。現場から多くの声をいただき、課題を解決すべく活動を続けた1年でもありました。その中で看護職においては慰労金が支給されるなど、以前よりも看護職自身、そして専門性にも注目が集まるようになりました。病院の経営不振などから処遇が悪化している方もいますが、看護職全体の処遇改善にさらに力をいれていきます。昨年9月に、参議院において昨年に引き続き3度目となる厚生労働委員会筆頭理事を拝命致しました。運営が最も難しい委員会の一つとされる厚生労働委員会の運営に携われることはありがたいことです。議論を今年もしっかりと進めていけるよう、最大限の努力を続けます。合わせて、2年ぶりに参議院自民党国会対策委員会の副委員長を拝命しました。議会運営の担い手として気を引き締めて責務を全うしていきます。私の政治信念は「現場」とともにあります。皆さんからの現場の声が私の原動力です。看護職が「今日も良い看護ができた！」と実感できる環境づくりのために引き続き尽力してまいります。今年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。





衆議院議員 自民党副幹事長 木村 やよい



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
 コロナの中で大変な思いをして頑張っておられる全ての看護職の仲間たちに、心からのエールをお伝え申し上げます。  
 慰労金はお手元に届いていますか。何か不都合なことがありましたら、お知らせください。看護職の代表として皆さまの安心をお守りいたします。  
 私は、昨年9月に自民党副幹事長を拝命しました。菅総裁・二階幹事長をお支えしてまいります。

第203回臨時国会は、1カ月余りの短期間でしたが、厚生労働委員会では予防接種法改正などが成立。私も、厚生労働委員会と消費者問題に関する特別委員会で質問、総務委員会では郵便法改正案の賛成討論などをいたしました。

第2次補正予算では、慰労金として看護職への直接手当が実現しました。これは看護界史上なかったことです。これを特例にせず、超少子高齢社会の医療提供体制のキーパーソンである看護職のモチベーションの維持のためにも、看護の専門性が正しく評価されるよう、引き続き発信してまいります。これからも、看護職が疲弊せず生き生きと働き続けられる環境づくりに、看護連盟の皆さまとともに、現場の声を丁寧にうかがいながら、力を尽くしてまいります。

コロナを経て、人と人との繋がり、幸福感の追求があらためて見直されました。看護師・保健師出身の国会議員として、皆さまの健康を守りぬけるようがんばります。本年もご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和2年度 長崎県県政報告会

日時：令和2年11月21日(土) 14:00~16:00  
 場所：長崎県看護協会（長崎会館）5階研修室  
 参加者：役員12名(名誉会長含む)各支部支部長・幹事長34名  
 青年部4名 県議会議員19名 県連職員3名

### 内容

1. 新型コロナウイルス感染症対策について  
長崎県福祉保健部長 中田 勝己
2. 新型コロナウイルス感染症対策に係る自民党県連の対応  
自由民主党長崎県支部連合会政調会長 前田 哲也
3. 長崎県県議会議員活動報告



今回は、新型コロナウイルス対策に対して県の今までの取り組みとして県福祉保健部長に講演していただきました。発生状況・相談、外来検査体制の整備、診療体制、病床確保計画等パワーポイントを利用して説明を受け、体制作りが整っていることに安心しました。また、県議会議員、各人の活動報告の中には、看護職員確保に向けた対策や、県民の健康管理を担っていることに対する看護職員への感謝の意見などありました。会員からは、6名が質問や意見を述べ、回答を得られました。多忙ななか参加して頂き、双方に実りある時間を共有できたと思います。



自由民主党長崎県支部  
連合会幹事長  
外間 雅広



長崎県福祉保健部長  
中田 勝己



自由民主党長崎県支部  
連合会政調会長  
前田 哲也

# 2020年度 長崎県看護連盟通常総会

日時：2020年6月27日(土) 10:30~12:00

場所：ながさき看護センター 参加人数：45名(役員含む)

今回、長崎県看護連盟通常総会は新型コロナウイルス感染症拡大状況に伴い、時間・規模を縮小して開催されましたが、組織の団結を求められる総会となりました。

## 【2020年度 長崎県看護連盟スローガン】

### 1. 届けよう 看護の声を！私たちの未来へ

#### 1. 長崎県の活性化に向け看護の力を発揮しよう ～健康で輝き、働き続けられる看護の心～



# 2020年度 日本看護連盟通常総会

2020年度日本看護連盟通常総会が11月30日(月)13:00から15:30まで東京プリンスホテルでリモート(ZOOM)会議の併用で開催されました。

参加者は代議員583名中47名、リモート294名、委任状233名、役員14名とリモート2名というコロナ禍での参加状況でした。プログラムに沿って開会され、最初に54名の物故会員の黙祷を行いました。

日本看護連盟大島敏子会長の挨拶では、コロナ禍の最前線で働く看護職への感謝と看護職の看護実践力が世論でも分かるように評価されている。新たに看取りに診療報酬がつくようになった。今後も看護連盟と協会が協働して国への看護政策を提言していきたいと述べられました。

来賓挨拶では日本看護協会の福井トシコ会長より、医療・介護の現場で働く看護職が安全に、やりがいを感じながら能力を十分に発揮できるよう連盟と協会が共に国へ提言をしていきたいと述べられました。ビデオメッセージでは菅義偉内閣総理大臣を始め、田村憲久厚生労働大臣、萩生田光一文部科学大臣、あべ俊子衆議院議員、たかがい恵美子参議院議員、石田まさひろ参議院議員の挨拶が紹介されました。

今年度の総会は、第3波のコロナ禍という事もあり、代議員の参加者も大幅に削減し規模縮小の中、万全な感染予防策を構いながら審議事項はなく、報告事項のみとなりすべて承認されまして閉会いたしました。

次期参議院選挙への組織内候補者については、来年6月に開催予定の日本看護連盟通常総会で決定することになりました。





# 青年部だより



## 新年あけましておめでとうございます!!



長崎県看護連盟 青年部部长  
吉田 朱李

令和2年11月7日、長崎会館にて**青年部育成研修**を行いました!!

各地区の青年部が20名集まり（**県南6名、県央6名、県北6名、離島2名**）青年部部长、吉田朱李さんより、青年部概要を説明をし、山口ミユキ名誉会長から「**看護と政治**」について講演をいただきました。コロナ禍でもやれる活動を精力的に行われている名誉会長の熱を受けそれぞれが、今必要な事を感じとれたかと思えます。いま、できる活動をそれぞれの施設に持ち帰り実践していきますのでご協力よろしくお願ひします。



令和2年11月17日、ながさき看護センターにて**フォローアップ研修**を行いました!!

参加者37名と多くの参加を頂きありがとうございます。連盟幹事の坂田幸利さん、青年部副部長の藤澤悟さんのお二人から基調講演をいただきました。それぞれの経験を踏まえて看護連盟の必要性を説明し、選挙の仕組みや看護職を国政の場へ送り出す必要性、また、看護連盟に加入する事で自分達にもたらされる恩恵など分かりやすく説明していただきました。



長崎県看護連盟 幹事  
坂田 幸利さん

現在、長崎県看護連盟青年部は32名で活動しています。  
2021年も頑張っていきますのでよろしくお願ひします!!

コロナ禍の中でも、感染対策をしっかり行い、それぞれができることを行なっています!  
大変な今だからこそ一致団結して乗り越えていきましょう!!!  
若い世代の参加を青年部は待っています。ご連絡お待ちしております!!





## 令和2年9月22日、 ながさき看護センターにて 新入会者研修を行いました



35名のフレッシュな新人さん達に参加していただき、看護連盟と看護協会の関係、青年部活動について講演し、個人ワークという形で各自に意見をまとめてもらいました。看護連盟の役割、コロナ禍での医療職者として感じていることなど新入会者の生の声が多数寄せられましたので一部紹介します。

### 看護連盟について

- 連盟は政治活動を通じて看護師が働きやすい環境を追求している。自分は何ができるのか考えたところ、まずは選挙に参加し票を入れることが大事だと感じた。
- 今、私たちが看護師として働きやすい環境があるのは、看護協会・看護連盟を通じて政治活動を行い、看護の現状を訴えかける人がいたからだということがわかった。そして、これからも自分たちが働きやすい環境を整えるために自らが連盟や協会などへの意見を発信していくことが大事だと思った。若い世代の私たちが政治に関心を持つ必要があるとわかった。
- 今まで、政治について今まで関心がなく非協力的な部分があったが、社会人となり自分自身を守るために政治の関係性が深いと感じた。政治について「関心がないから」と思わず、自分から政治活動に協力できるように心がけていきたい。
- 現場で働いてみて、疑問点や改善して欲しい点もあるが、それが当たり前、昔からそうだから変わらないだろうと諦めながら働いている。しかし、実際に臨床で働く看護師の声がなければ法律は改善されない。今後働くであろう後輩たちも同じ思いをしながら働くことになるため、自分の不満を声に出して試みる大切であると思った。法律が変わるには長い期間を要するため、看護師が働きやすい、働き続けられる環境を今から作っていくことが重要だと思った。

### コロナ感染症の看護を通して感じたこと

- 院内で個人情報保護のためコロナ患者に関する情報がなかなか共有されていない。そのため、受け入れ病棟に対する厳しい意見（病棟を確保しているから暇だろう、受け入れ病棟からの応援は…など）があり、先輩方に対して不愉快であった。同じ病院で働く人同士なのに、対応病棟でないところと対応病棟との意識（気持ち）の差が嫌だった。
- 医療従事者だからといって自分や家族、大切な人の命を最優先に考えてしまうのはしょうがないことだと感じた。コロナ感染者の患者の看護をするうえで様々な思いがあることも人であるため仕方ないことだと思った。直接対応した方々には感謝しかない。新卒で何もできない自分の無力さを感じた。
- 新人看護師として多くの業務を覚えていかないといけない。やっと、業務に慣れてきたという時期にコロナ患者の入院があり、今までの業務が一変し正直困惑する気持ちがあった。しかし、先輩方の背を追いながらまた、指導していただきながら環境の変化に適應できたのではないと思う。
- 生命を脅かす感染症であるため正直、自分も感染したら怖いと思うためコロナに感染して入院してきた患者には治療も大切だが精神的サポートも必要だと感じた
- いつ自分が感染するかわからない恐怖を感じた。

# 看護連盟応援団紹介



ぶれない！  
動じない  
看護は一つ

2009年6月に5人の会員有志で発足しました。きっかけは、恩師である山口名誉会長が大病を患った経験を持ちながらも看護界のために人生のすべてをかけ日夜活動をされている姿に感銘を受けました。そして「**自分にはできることはないのか！これでいいのか？**」と自問自答して辿り着いたのが**応援団結成**でした。

2010年の県知事選挙を皮切りに、参議院選挙はもとより他団体の選挙においても応援団が関わる全ての選挙で勝利の感動を得られました。

今回県南地区看護祭（バザー）の収益金の一部から、新衣装（法被）を作成し、11月12日長崎県看護連盟に贈呈することができました。協力して頂いた方々には感謝いたします。この法被は、思いとともに次の世代へも繋げて行っていただきたいと願っています。今後も会員皆様の連帯感が強まるよう、法被・太鼓・必勝綱を掲げ、全身全霊を注ぎ演舞していきます。よろしくお願いいたします。



県南地区 植松 末広

## 信念こそわが勝利



## 令和2年度 秋の叙勲受章 おめでとうございます

看護業務功勞として 瑞宝双光章  
県北地区第1支部支部長  
片山 由喜子さん  
(元 佐世保共済病院 看護部長)



年間を通して連盟会員を募集し  
てます。看護連盟に入会し職場  
の声を国政に反映させましょう。

入会案内

### 編集後記

2020年は、新型コロナウイルス感染対策の為すべての環境で自粛体制となり会員同士の交流の場が減りました。働く現場も私生活面でも様々な制約の中過ごされ、現在も継続しています。一日でも早くマスク無しの満面の笑顔と手袋無しの温かい手で患者さんと接したいと願う日々です。

未だ尚、医療現場や多様な職場で働く会員皆様に感謝と「エール」を送りあい頑張っていきましょう。